新型コロナウイルスワクチンの長期的な副反応と思われる症状で受診された方の症例集
（Case Collection Of Nagoya）（第１報）

名古屋市
名古屋市医師会
愛知県看護協会

名古屋市新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの長期的な副反応に関する治療状況調査・検討会委員

委員名（敬称略）	所属・役職
竹中　基晃	一般社団法人名古屋市医師会 理事
結城　房子	公益社団法人　愛知県看護協会 常務理事
松原　史朗	名古屋市 健康福祉局医監（保健所長）

※本症例集は、各委員の執筆協力や助言をいただき、名古屋市新型コロナウイルス感染症対策室がその内容を取りまとめたものとなります。

令和 5 年 3 月 27 日　第 1 報

目次

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2　名古屋市における長期的な副反応相談体制の概要・・・・・5

3　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

4　症例の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

5　症例サマリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

6　症例の調査検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

7　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

【資料】長期的な副反応相談窓口への相談実績・・・・・・・・・19

1　はじめに

2019 年 12 月武漢市で発生し、パンデミックとなった新型コロナウイルス感染症。現在、我々は人類の歴史上で大きな出来事の渦中にいます。

調査可能な過去の感染症の記録を振り返ると、紀元前のエジプトのミイラから検出された天然痘の痕跡から始まり、西暦 540 年頃ヨーロッパで流行したペスト、1918 年に世界で 4000 万人以上死亡したと推定される新型インフルエンザ（通称スペインかぜ）。2000 年以降のものでは、2002 年 SARS（重症急性呼吸器症候群）、2009 年新型インフルエンザ（A/H1N1）などがあります。

以上の歴史を考えても人類の歴史は、感染症との闘いの歴史と言っても過言ではありません。方向を変えてワクチンの歴史を振り返ると、18 世紀ジェンナーによる牛痘種痘法確立に始まります。以降、19 世紀後半ルイ・パスツールによる弱毒生ワクチン開発で、より安全な不活化ワクチンがイギリスで開発へとつながります。20 世紀には、孵化鶏卵培養法、細胞培養法、遺伝子組み換え法といったワクチン製造法が開発され、より安全により多くの人にワクチンが接種できるようになりました。[1)]

今やワクチンは、感染予防・重症化抑制といった個人の健康保持の意味合いだけではなく、社会機能を保持する役割を担っています。

しかし、どれだけ人類の英知を結集したワクチンを製造したとしても 100％安全なワクチンはありません。必ず副反応・後遺症は発生します。

また、新興感染症パンデミック下においては、専門家においても予期できない事象が数多く発生します。専門的知識を持たない一般市民にとっては、未知の病原体自体への恐怖、感染した際の死に対する恐怖、新規ワクチン投与への不安・新規治療薬副作用への不安等、挙げればきりがありません。

今回我々は、名古屋市および愛知県看護協会と協力し、新型コロナウイルスワクチンに関する副反応症例の収集、検討を行いました。

今回は 1 月 23 日現在で調査結果の収集が可能であった 20 症例を調査検討対象としました。症例が少ない中での調査検討となりましたので、有意差等検討不能と判断し、症例の傾向を検討することとなりました。明確な指針となるようなことは見出せませんでしたが、今後、更なる症例を集めて臨床の場においてより使いやすい治療の参考となる症例集としてまいります。今回の症例集が医療関係者の新型コロナウイルスワクチンを始めとしたワクチン接種において発生した副反応対処法・治療法の一助になれば幸いです。

名古屋市医師会　理事

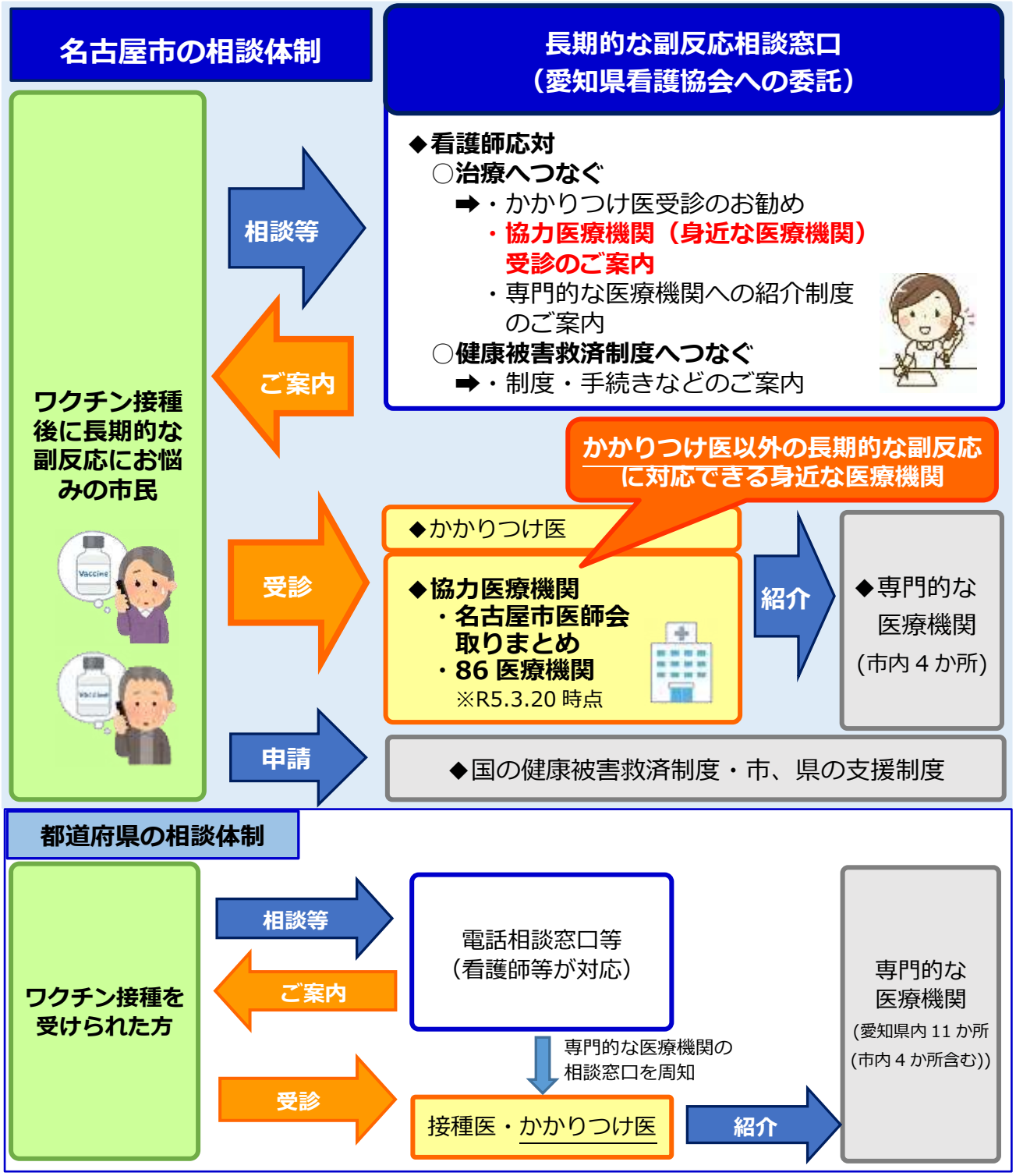
竹中　基晃

【参考文献】

1）「予防接種を知る」DOCTORASE　No40　日本医師会

2　名古屋市における長期的な副反応相談体制の概要

ワクチン接種後の長期的な副反応にお悩みの市民の皆様に対して、令和 4 年 3 月 25 日に専用の電話相談窓口を開設し、治療及び予防接種救済制度を案内しています。相談実績の詳細は【資料】（P19）をご参照ください。



3　調査の概要

(1)　調査の趣旨

名古屋市では、なごや新型コロナウイルスワクチン長期的な副反応相談窓口(以下、「相談窓口」)を令和 4 年 3 月 25 日に開設し、長期的な副反応と思われる症状でお困りの市民に対し相談対応を行うとともに、必要な方には協力医療機関への案内を行っている。開設から令和 4 年 6 月末までの期間、相談窓口において、協力医療機関に案内した約 700 人のうち、どのくらいの方が協力医療機関を受診し、どのような症状の方に、どのような治療が行われ、どのような経過となったのか、実態を把握するために、調査への協力に同意があった医療機関を対象に調査を行った。

本症例集は、臨床の場における治療の参考となる症例集とすべく、その調査結果をとりまとめたものとなる。

(2)　調査対象

<table>
<tr><td colspan="6">長期的な副反応相談窓口への相談者　約 1,200 人</td></tr>
<tr><td rowspan="6">協力医療機関に案内しなかった方
約 500 人</td><td colspan="5">協力医療機関に案内した方　約 700 人</td></tr>
<tr><td colspan="5">協力医療機関　88 医療機関　(※事前調査時の対象医療機関)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事前調査に回答が無かった医療機関
13 医療機関</td><td colspan="4">事前調査に回答があった医療機関　75 医療機関</td></tr>
<tr><td rowspan="3">本調査への協力が難しいと回答した医療機関
58 医療機関</td><td colspan="3">本調査への協力に同意があった医療機関
17 医療機関</td></tr>
<tr><td colspan="2">本調査の対象とした症例
40 症例</td><td rowspan="2">当初、調査対象の件数にあげられていなかったが追加報告のあった症例
7 症例</td></tr>
<tr><td>調査票未提出の症例
27 症例</td><td>調査票提出済みの症例
13 症例</td></tr>
<tr><td colspan="3">今回調査検討の対象とする症例
9 医療機関　20 症例</td></tr>
</table>

(3) 事前調査

本調査の前に、調査方法や対象等について検討するため、アンケート調査を実施し、11月7日にとりまとめて公表した。

ア　対象期間

令和4年3月25日(金)から令和4年6月30日(木)まで

(参考：令和4年6月30日までの協力医療機関への案内件数：691件)

イ　対象医療機関

88医療機関（事前調査時点）

ウ　調査内容

協力医療機関の受診患者数、受診した患者の現状など

エ　調査結果概要

(ｱ)　回答数

75医療機関（回答率85.2%）

(ｲ)　医療機関について

・47医療機関に実際に患者が受診

・47医療機関のうち29医療機関に「相談窓口から案内を受けた」と確認できた患者が受診

（傾向）特定の協力医療機関に患者が集中することなく、市内の幅広い協力医療機関で患者を受け入れている。

(ｳ)　患者について

・47医療機関に173人の長期的な副反応を訴える患者が受診

・173人のうち74人について、「相談窓口から案内を受けた」と確認

・「治療が継続している」方が29人、「治療が終了した(治癒した)」方が30人

（傾向）相談窓口から案内を受けた患者が協力医療機関につながっている。また、治療が終了した方と治療が継続している方の数がほぼ同数である。

【患者の状況】

区　　分	人　数
治療が継続している	２９
治療が終了した(治癒した)	３０
県が設置している専門医療機関を紹介	３８
他の医療機関を紹介	１６
治療中だが来院しなくなった	２９
その他	8
未記入	２３
計	１７３

(4)　本調査

対象医療機関に対し、再度調査票を送付し、回答を得た。

ア　調査期間

令和 4 年 3 月 25 日(金)から令和 4 年 6 月 30 日(木)まで

※ただし医療機関より調査票の提供があった場合は、対象期間以降の症例についても、調査検討の対象とする。

イ　対象医療機関

17 医療機関（※うち 9 医療機関より回答あり）

※事前調査に回答があった 75 医療機関のうち、本調査にご協力いただけるとご回答いただいた医療機関

ウ　調査検討対象症例

20 症例

※医療機関の了承が得られた 40 症例を調査検討の対象とし、調査票の提出を依頼。

※とりまとめ期限までに提出が間に合わなかった症例については、今後の報告の際に追加する。

エ　調査内容

年齢、性別、主訴、新型コロナウイルスワクチン接種歴、既往歴、併存疾患、常用薬、家族歴、生活歴、身体所見、検査、経過、治療方針等

(5) 本症例集の中で取り扱う用語の定義等

ア　長期的な副反応

ワクチン接種後、ごくまれに起こると報告されている心筋炎や心膜炎以外に、接種後おおむね 2 週間以上経過しても継続している原因不明の症状（頭痛、筋肉痛、無気力など様々な症状）

イ　予防接種健康被害調査委員会との違い

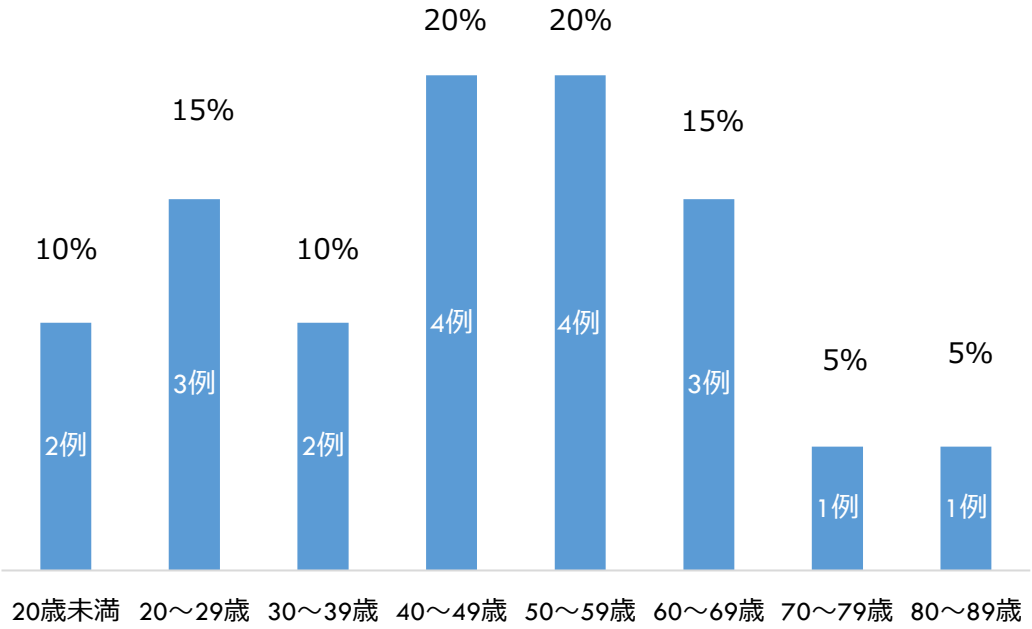
名古屋市が設置する予防接種健康被害調査委員会においては、予防接種を受けたことによる疾病により医療を受ける者等からの医療費等の請求について審議する。

一方、本検討会の調査対象は、本市が設置・運営をしている長期的な副反応相談窓口の協力医療機関で、アンケートにて調査への協力に同意のあった医療機関（以下「調査対象医療機関」）。調査対象医療機関に調査票の提出を依頼し、回答があった症例について検討会で審議する。

健康被害調査委員会は予防接種法に基づく健康被害救済を目的としており、両者の目的は異なるものだが、対象の案件がそれぞれの目的に従って、検討会及び健康被害調査委員会に双方に付議される可能性もある。

4　症例の概要

(1)　年齢

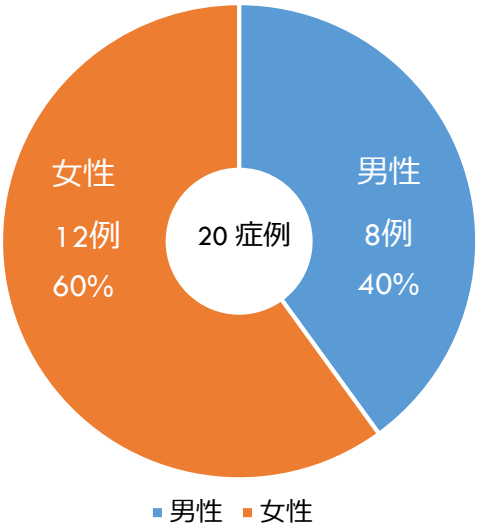


※最年少 14 歳、最年長 82 歳

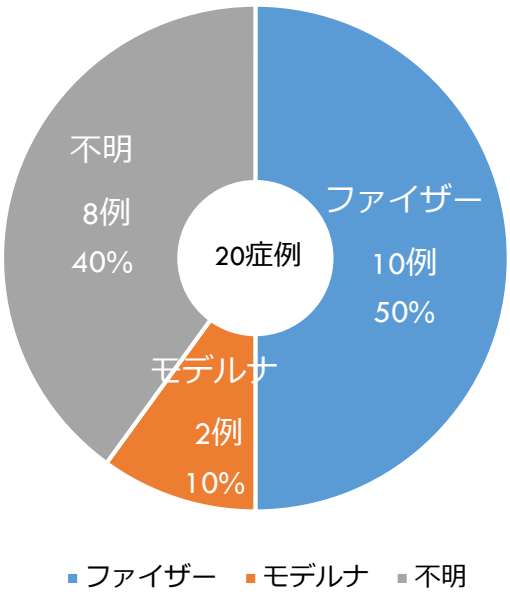
（傾向）幅広い年代にわたるが、ワクチン接種率の高い 70 歳以上では少ない。

(2)　男女比

（傾向）男女比に明確な差はない。

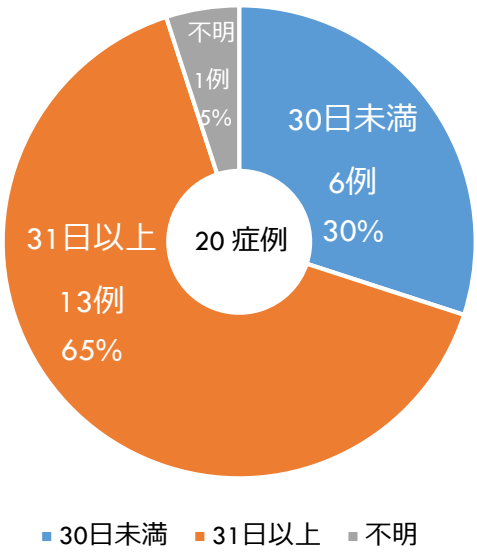


(3)　接種ワクチン種別

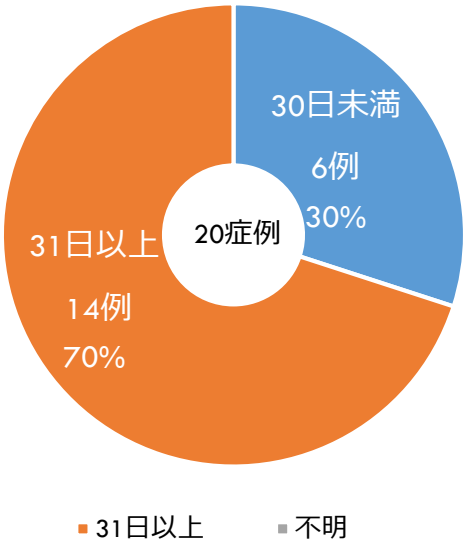


（傾向）ファイザー社製ワクチン接種後の症例がモデルナ社製ワクチン接種後の症例より多いが、ファイザー社製ワクチンの接種者数が多いためと考えられる。また接種ワクチンが不明な症例も多い。

(4)　当該ワクチン接種から調査対象医療機関受診までに要した期間

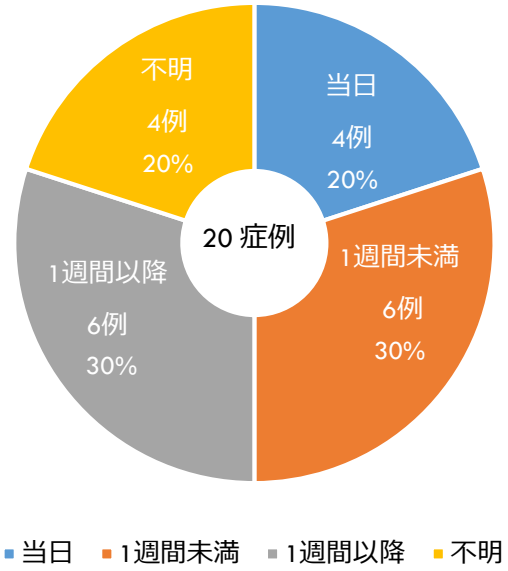


(5)　発症から調査対象医療機関受診までに要した期間

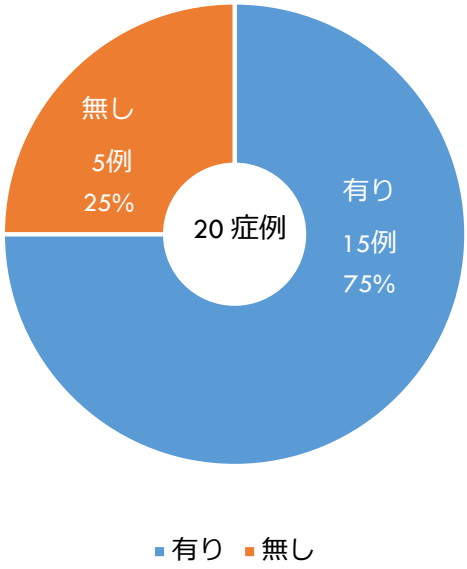


※最短 2 日～最長約 11 か月
（傾向）半数以上の症例が、発症および接種から受診まで、1 月以上かかっている。

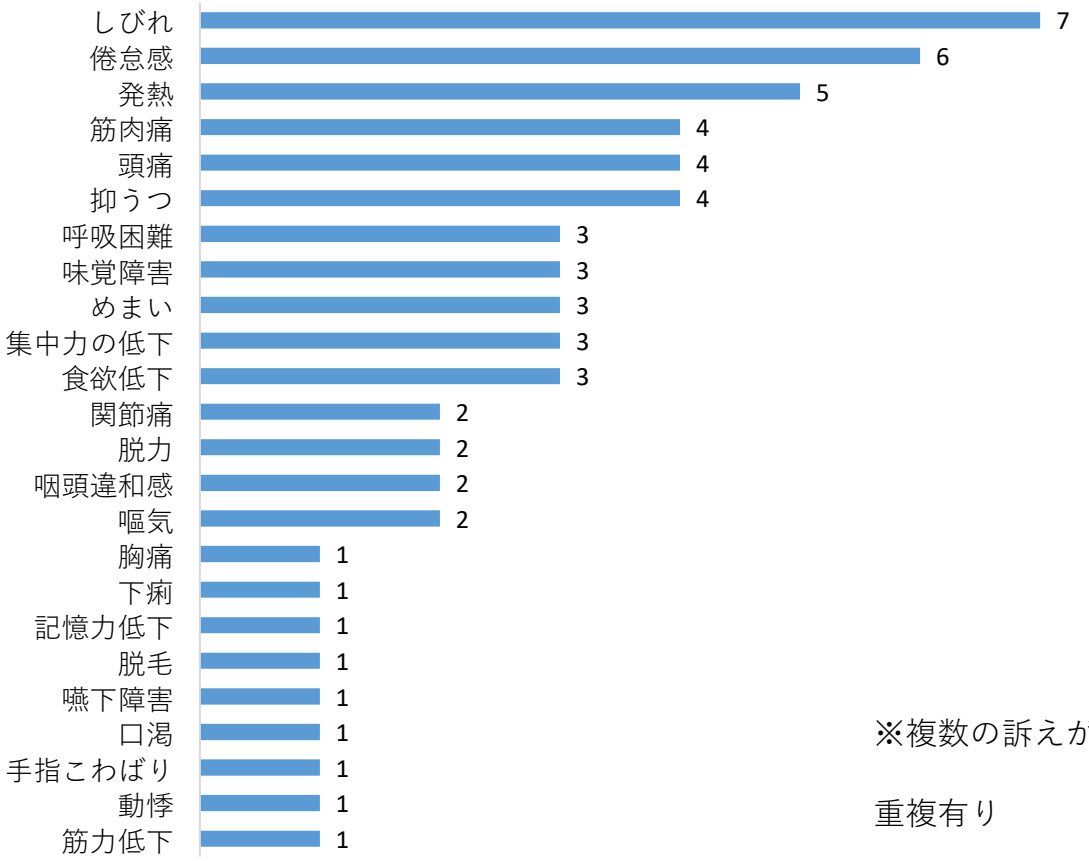
(6)　接種から発症までに要した期間



(7)　基礎疾患・既往歴



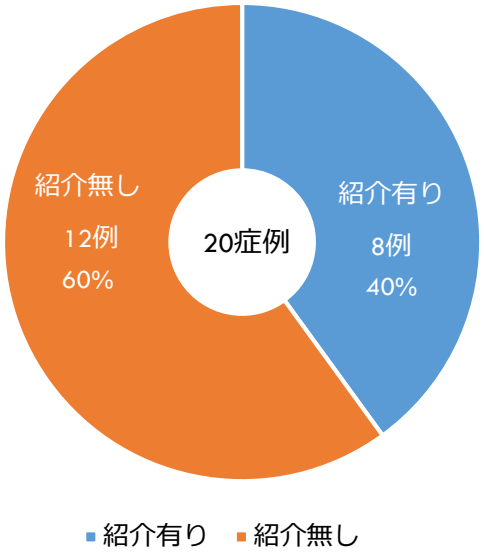
(8)　主な症状



※複数の訴えがあるため、

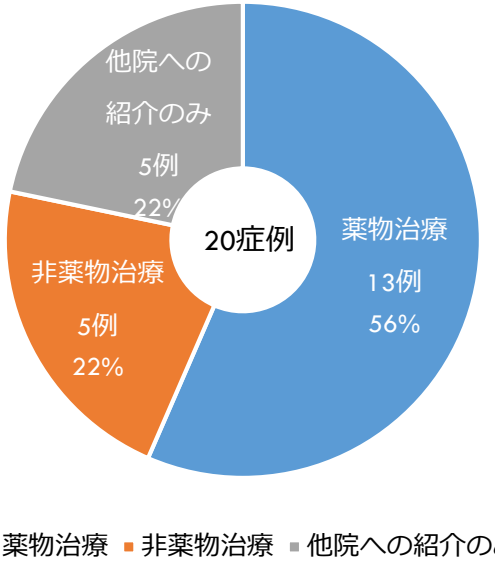
重複有り

(9) 専門的な医療機関への紹介の有無



（傾向）診察後、更に専門的な医療機関の紹介が必要となった症例が 4 割程度見られる。

(10) 治療概要

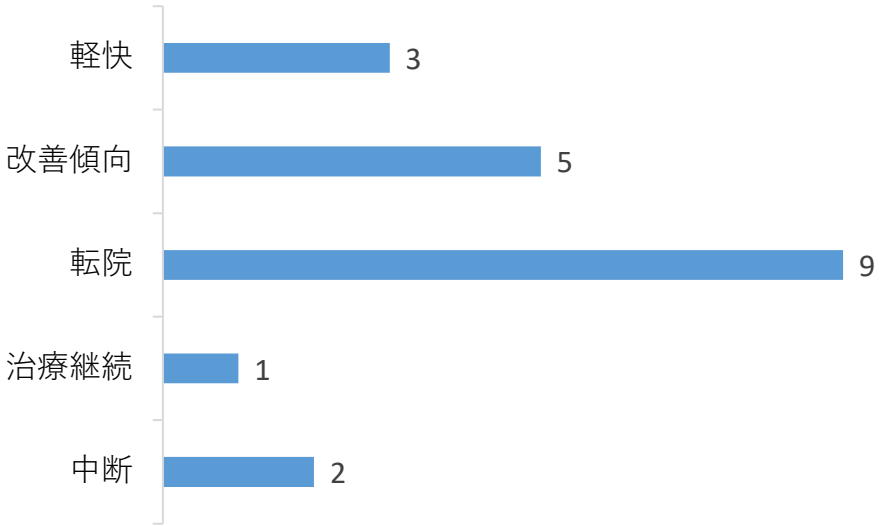


※複合治療症例があるため、重複あり

（傾向）投薬が治療の中心となっている。

(11) 症状の経過

※全 20 症例



(傾向)半数近くの症例について、改善が見られない。

5　症例サマリー

症例	性別	年代	ワクチン	接種回数	基礎疾患・既往歴	主な症状	治療法	経過
1	女	60	従来	2	高コレステロール血症	しびれ	専門的な医療機関を紹介（総合内科）	転院
2	男	50	従来	3	慢性硬膜下血腫	倦怠感、めまい、集中力の低下	投薬治療(人参養栄湯、補中益気湯)	改善傾向
3	女	20	従来	3	―	微熱、倦怠感、抑うつ	投薬治療(大柴胡湯、ロフラゼプ酸エチル)	改善傾向
4	男	50	従来	3	高血圧、脂質代謝異常、陳旧性心筋梗塞	関節痛、左上腕の痛み、左上肢挙上困難	投薬治療(アセトアミノフェン)、専門的な医療機関を紹介（総合内科）	転院
5	女	60	従来	3	糖尿病、高血圧症、心臓病、肥満	味覚障害、左顔面しびれ、嚥下障害	投薬治療(人参養栄湯、ポラプレジンク)、B-spot 療法、食事と運動等指導	中断
6	女	50	従来	3	子宮筋腫	味覚障害、咽頭違和感、口渇	投薬治療（人参養栄湯、ポラプレジンク、トラネキサム酸）、B-spot 療法	軽快
7	女	80	従来	3	慢性の心臓病、高血圧症	めまい	投薬治療(ベタヒスチンメシル酸塩、メコバラミン、アデノシン三リン酸二ナトリウム水和物顆粒、人参養栄湯)、運動療法	軽快
8	女	40	従来	3	高血圧症	味覚障害	投薬治療(ポラプレジンク、デキサメタゾン口腔軟膏)	軽快
9	女	40	従来	3	子宮筋腫、EB ウイルス感染後急性肝炎	しびれ、発熱、手足違和感、手指こわばり	リハビリ	改善傾向
10	女	40	従来	2	喘息、心療内科通院中	頭痛、めまい、右手のしびれと痛み、後頭圧迫感	投薬治療(トフィソパム、セルトラリン塩酸塩）、主治医（心療内科）へ引継ぎ	転院
11	男	20	従来	3	不安抑うつ混合性障害	集中力の低下、抑うつ、緊張感、不安感、動悸、早朝覚醒	投薬治療(アルプラゾラム、ドスレピン塩酸塩、レンボレキサント、137 加味帰脾湯 7.5、クロチアゼパム頓服)	改善傾向
12	男	10	従来	2	うつ状態	頭痛、集中力の低下、抑うつ、咽喉頭異常感	投薬治療（オキサゾラム、エスシタロプラム、ペマフィブラート、ドチヌラド）	中断
13	女	50	従来	1	―	呼吸困難、胸痛、頭痛、発熱、食欲不振、体重減少	経過観察、専門的な医療機関を紹介（呼吸器科、循環器科）、点滴	転院
14	男	30	従来	3	―	呼吸困難、関節痛、筋肉痛、倦怠感、脱力、しびれ、発熱、記憶力低下	経過観察、専門的な医療機関にて検査異常なし、他院（耳鼻科）で処置と内服あり	転院
15	女	20	従来	3	―	呼吸困難、筋肉痛、頭痛、下痢、倦怠感、脱力、しびれ、発熱、抑うつ、嘔気、手足の筋力低下、食欲低下	経過観察、投薬治療（補中益気湯、メコバラミン）	治療継続
16	男	10	従来	2	―	手足のしびれ	経過観察、専門的な医療機関を紹介（痛み外来）、鍼灸院を紹介	転院
17	男	60	従来	3	高尿酸血症、脂質異常症、不眠症	倦怠感	投薬治療(紫胡加竜骨牡蛎湯)、心理カウンセリング	改善傾向
18	男	70	従来	3	糖尿病、高血圧症、右黄斑変性症、胆石症、胆のう摘出後	筋肉痛、肩関節可動域制限	投薬治療(紫胡加竜骨牡蛎湯)、専門的な医療機関を紹介（整形外科）	転院
19	女	30	従来	2	アトピー性皮膚炎	脱毛	専門的な医療機関を紹介（皮膚科）、他院でレーザー治療	転院
20	女	40	従来	2	橋本病の疑い	筋肉痛、倦怠感、嘔気、食欲不振、体重減少	専門的な医療機関を紹介（リウマチ内科、消化器内科）	転院

6　症例の調査検討

(1)　全体の傾向

最も多い症状はしびれ（7例）であり、次いで倦怠感（6例）であった。筋肉痛、関節痛など、運動器の痛みを訴える症例も多く（6例)、そのほか、発熱、抑うつ、集中力の低下、食欲低下、呼吸困難、味覚障害、めまい、嘔気、咽喉頭部異常感、脱毛など、幅広く様々な症状が見られた。

治療方法としては、薬物療法が主であったが、多彩な症状に合わせて投薬内容も幅広く、漢方薬が用いられている症例が9例あり、そのうち4例は人参養栄湯が投与されていた。抗うつ薬などの向精神病薬が処方されている例は4例あった。理学療法、運動療法、カウンセリング、鍼治療などの非薬物的治療を採用している症例もあった。

(2)　症状別の傾向と選択された治療法

・**しびれを訴えた方が７例**（症例 1,5,9,10,14,15,16）見られた。

・しびれを訴えた7例には経過観察や総合内科、痛み外来などの専門医への紹介を行う例が多かったが、患者側で治療を中断する例も見られた。

・投薬治療では、漢方薬（人参養栄湯、補中益気湯)、ビタミンB12製剤等が投与されていた。

・**倦怠感を訴えた方が６例**（症例 2,3,14,15,17,20）見られた。比較的若い世代での訴えが多かった。

・倦怠感を訴えた6例には経過観察や専門的な医療機関の紹介、漢方薬（人参養栄湯、大柴胡湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、補中益気湯）の投与、心理カウンセリングなどが行われていた。

・**筋肉痛を訴えた方が４例**（症例 14,15,18,20)、**関節痛を訴えた方が２例**（症例 4,14）見られた。

・ワクチン接種後、比較的早期に受診した例が多かった。

・筋肉痛や関節痛を訴える5例には専門的な医療機関を紹介する例が多かった。

・投薬治療では、消炎鎮痛剤、漢方薬（補中益気湯、紫胡加竜骨牡蛎湯)、ビタミンB12製剤等が投与されていた。

・**精神症状を訴えた方が５例**（症例 2,3,11,12,15）見られた。
・受診するまでに時間を要する傾向があった。
・精神症状を訴える方には３例に抗不安薬、抗うつ薬、睡眠薬等が投与されていた。また 4 例に漢方薬（人参養栄湯、大柴胡湯、加味帰脾湯、補中益気湯）が投与されていた。

・**頭痛を訴えた方が４例**（症例 10,12,13,15）見られた。
・頭痛を訴えた４例中、2 例で向精神薬（ベンゾジアゼピン系抗不安薬、抗うつ薬等）が、１例で漢方薬（補中益気湯）とビタミン B12 製剤が投与されていた。残りの１例は専門的な医療機関に紹介されていた。

・**味覚障害を訴えた方が３例**（症例 5,6,8）、**めまいを訴えた方が３例**（症例 2,7,10）見られた。
・味覚障害を訴える３例は全員同じ耳鼻科を受診しており、胃粘膜保護剤や漢方薬（人参養栄湯）、抗プラスミン薬、ステロイド口腔軟膏などが組み合わせて投与されていた。また２例に B-spot 療法が行われていた。
・めまいを訴える３例のうち１例には抗めまい剤、ビタミン B12 製剤、脳循環代謝改善剤、漢方薬（人参養栄湯）が、１例には自律神経調整薬と SSRI が、１例には漢方薬（人参養栄湯、補中益気湯）が投与されていた。

・**呼吸困難を訴えた方が３例**（症例 13,14,15）見られた。
・比較的若い世代が多く、いずれの症例も既往症や併存疾患に特記すべき事項はなかった。また、呼吸困難だけを訴える症例はなく、胸痛や筋肉痛、しびれ、発熱など幅広い症状を呈していた。
・３例とも経過観察がなされ、うち２例は専門的な医療機関に紹介されていた。１例には漢方薬（補中益気湯）とビタミン B12 製剤が投与されていた。

・**咽喉頭部の違和感を訴えた方が２例**（症例 6,12）見られた。
・うち１例に B-spot 療法が行われており、残りの１例は投薬治療が行われていた。

(3) 考察

・症状はワクチン接種後のしびれや痛みが長く続くもの、接種をきっかけに様々な不安から心身の変調をきたしたもの、新型コロナ罹患後症状に類似するものなど、幅広い症状が見られた。全身倦怠感は若い世代で多く、運動器症状や耳鼻科症状は比較的高い年代層まで幅広く見られた。

・新型コロナウイルス罹患後症状と今回調査検討した一部の症例の症状には類似が見られ、治療選択に迷った際の参考となる可能性がある。

※埼玉県医師会作成「新型コロナ後遺症（罹患後症状）診察の指針のための症例集（第 2 版）」
厚生労働省作成「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント」

・治療としては、経過観察や専門的医療機関への紹介のほか、しびれに対するビタミン B12 製剤、疼痛に対する消炎鎮痛剤、めまいに対する抗めまい剤、精神症状に対する抗不安薬や抗うつ薬の投与などが多く行われていた。

・今回は個々の症状別に用いられた治療法を概観したが、実際には複数の症状の背後の病態を推察し、それに合わせた治療がなされていると考えられた。

・症例数が限られているため、治療法と症状の改善との関連の分析には至らなかった。また、長期的副反応に対する調査検討を実施している自治体は、現段階では把握出来なかったため、他自治体における調査結果との比較検討は出来なかった。

・名古屋市の設置した相談窓口は、副反応にお困りの市民の方等の相談に応じ、速やかに専門医に紹介できるシステムであり、今後も大きな役割を果たしていくと考えられる。

7　おわりに

2019 年 12 月に中国の武漢で初めて報告された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、またたくまに全世界に広がり、2023 年 3 月 10 日までに世界で　約 6 億 7657 万人が感染し、約 688 万人が死亡したと推定されています。

この疾患に対し、ワクチンが迅速に開発され、感染拡大防止や重症化予防に大きな効果を挙げました。わが国でも新型コロナウイルスワクチンが予防接種法の臨時特例接種に位置付けられ、全国民を対象に接種が進められました。接種の進展やウイルス株の変異により、重症化する方や死亡者数は大きく減少しましたが、一方でワクチンの長期的な副反応と思われる症状を訴える方も増えてきました。予防接種の副反応による重い健康被害は極めてまれですが、発生した場合には速やかに適切な医療につなげる体制の整備が必要です。

名古屋市では、愛知県看護協会や名古屋市医師会にご協力をいただき、「なごや新型コロナウイルスワクチン長期的な副反応相談窓口」を令和 4 年 3 月２５日に開設しました。この窓口への相談件数が累積で 2,100 件を超え、協力医療機関に案内した件数も 1,000 件を超えましたことから、受診した症例の症状や治療法などの情報を収集し、副反応症状の診療に役立てることを目的に、治療状況の調査を実施しました。

今回収集できた症例は 20 症例と少なく、また接種との因果関係が明らかなものばかりではありません。正確には長期的な「有害事象」というべきと思いますが、有害事象を蓄積することで類似の症例が集まり、ワクチンの副反応を明らかにする第一歩になると考えます。今回の調査では症状の特徴や治療法について一定の方向性を示すには至りませんでした。しかし、今後症例が蓄積していくことによって、診療に役立つような方向性が出ることを期待しています。医療機関の皆様にはこの症例集をご活用いただき、副反応疑いの患者さんの診療の一助としていただくとともに、ご経験された有害事象をご報告いただくことで、この症例集をより良いものに育てていただければ誠に幸いに存じます。

最後になりましたが、調査や症例集の作成にご協力いただきました医療機関、愛知県看護協会、名古屋市医師会、そして竹中、結城の両委員に心より感謝申し上げます。

名古屋市健康福祉局　医監

松原　史朗

【資料】長期的な副反応相談窓口への相談実績

新型コロナウイルスのワクチン接種の普及に伴い、名古屋市はワクチン接種後の長期的な副反応に苦しむ市民を対象に相談窓口を設置した。その目的は、接種後２週間以上経過しても継続する副反応症状に対応する医療機関の紹介や健康被害救済制度につなげることである。愛知県看護協会は、3 月 25 日より相談業務を開始した。経験豊富なプラチナナースを最大６人（保健師含む）雇用し、９月末までの相談件数は 1606 件であった。

今回の分析は居住地や症状の情報がとれた４月から９月の６か月間の 1336 件を対象とした。

(1)　相談件数　（図１）

３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	合計
272	522	230	188	135	135	126	1608

※分析の対象は４月～9 月の 1336 件とした

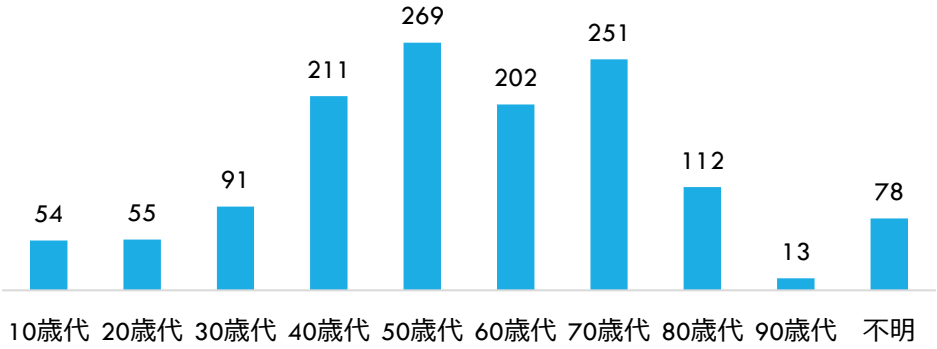
(2)　性別・年代内訳　（図２）（図３）

男女比は男性 472 人（35%）、女性 852 人（64%）、不明 12 人（1%）であった。年代は 50 歳代 269 人（20%）、次いで 70 歳代 251 人（19%）で、小児や若年者の接種も進み、10 歳代 54 人、20 歳代 55 人（それぞれ 4%）であった。

（図２）

男性	472 人
女性	852 人
不明	12 人
合計	1336 人

年代別　　n=1336　(図3)

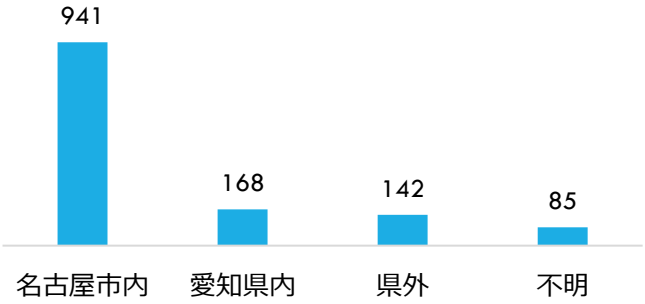


年代別の症状内訳については、【参考】に示す

(3)　居住地　（図４）

相談者の居住地は、名古屋市内 941 人（70%）、名古屋市を除く県内 168 人（13%）、県外 142 人（11%）で、県外相談割合は増加傾向である。

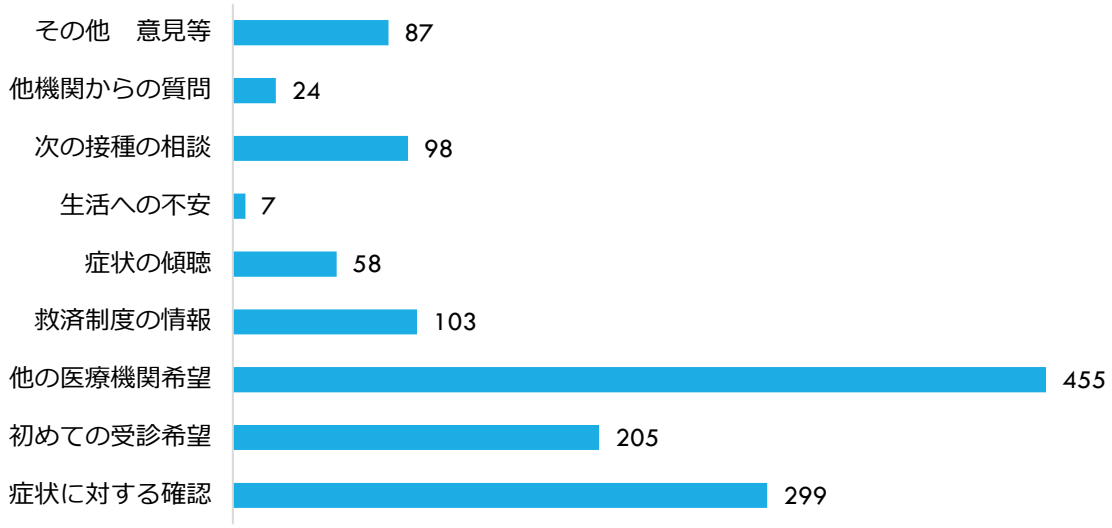
n=1336　(図4)



相談窓口の設置は名古屋市の事業であるが、我々は居住地を問わず必要としているすべての住民の相談に応じた。

(4) 相談内容 （図５）

n=1336 （図5）



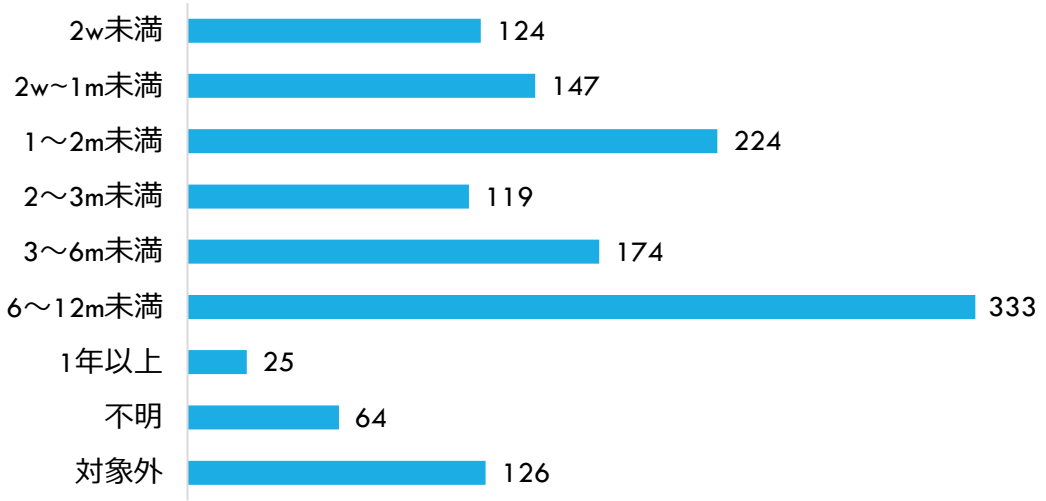
６カ月で最も多かった相談内容は、ワクチン接種後の他の医療機関紹介希望で 455 件と全体の 34％を占めていた。初めて受診を希望するが 205 件（15％）、今の症状に対する確認が 299 件（22％）で、具体的には自分の症状はワクチンの副反応なのか？どれくらいで治るのか？同じような症状の人はいるのか？受診したほうがよいのか等であった。症状に対する傾聴が 58 件（4％）、救済制度の情報は 103 件（8％）で、どのような給付が受けられるか、手続き方法や準備する書類については救済制度申請窓口を紹介した。

健康不安が主治医や他の医療機関で解消されず、医学的知識や情報を知りたい、客観的数値を知ることで安心したい、また自分のつらい症状や体調を聞いてほしいという一人一人の思いがひしひしと伝わってきた。

(5)　接種後に相談した時期　（図６）

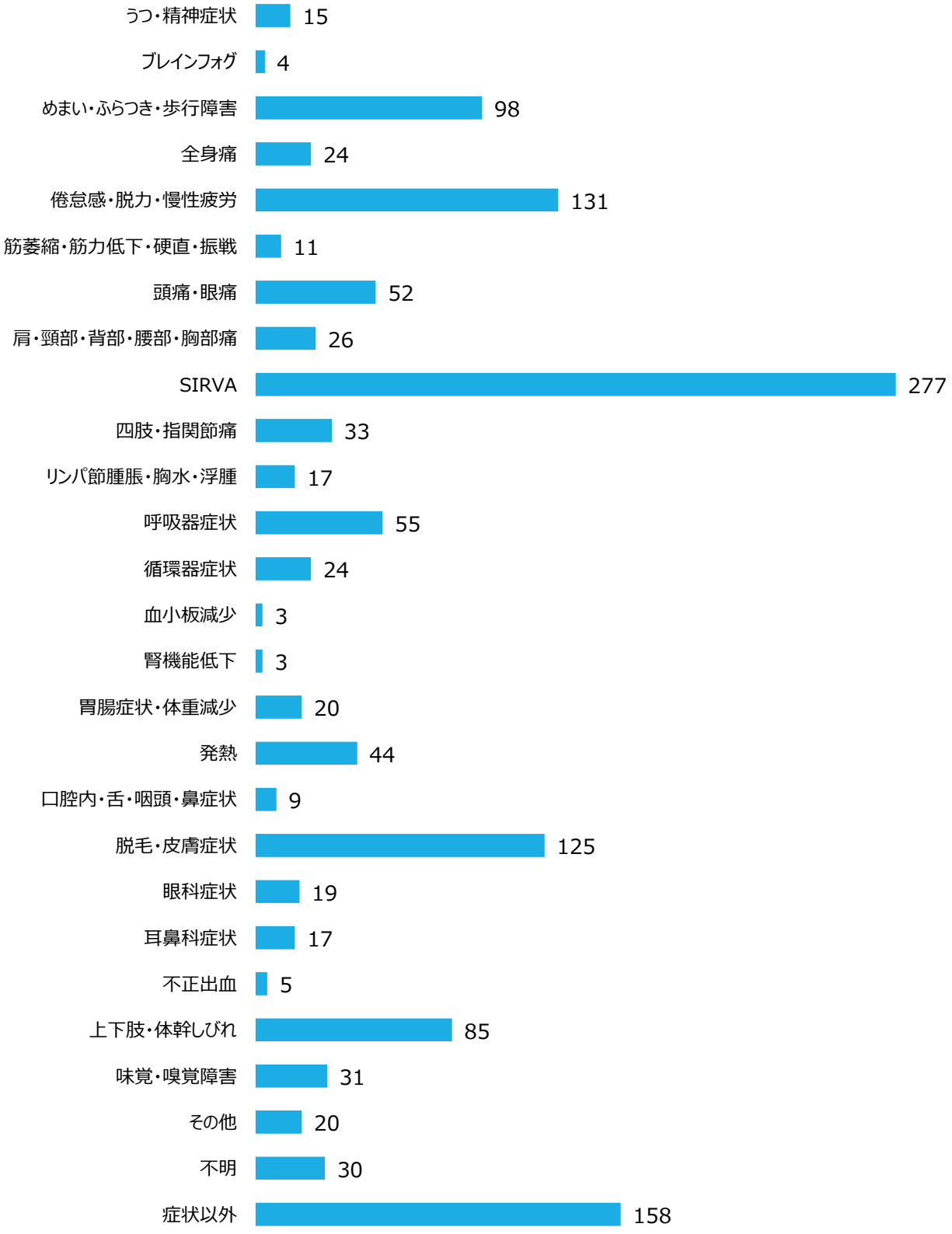
接種後半年以上経過してからの相談が 333 件（24.9%）と全体の 4 分の 1 を占める。次に 1～2 カ月経過してからが 224 件（16.8%）。1 年以上経過しても尚副反応に苦しむ相談は 25 件（1.9%）であった。相談するのは本人が自分の症状をワクチンの副反応ではないかと自覚したときからであり、ワクチン接種が進むにつれ、接種回数が 3 回～4 回と複数回になり、どの段階から副反応が出現したかは明らかにできなかった。

相談した時期　　n=1336　（図6）



(6)　最も困っている症状　（図７）

n＝1336　　（図７）



最も困っている症状は、「SIRVA」と想定される症状で 277 件（20.7%）であった。「SIRVA」とは、ワクチン接種後に生じる肩の急性症状（肩関節周囲炎、滑液包炎、腱板炎等）で、肩の疼痛の持続・可動域制限（腕が上がらなくなる、後ろに回らなくなる等）で、四十肩や五十肩と呼ばれる肩関節周囲炎に近い状態である。続いて倦怠感が 119 件（8.9%）、皮膚症状が 105 件（7.9%）、上下肢・体幹のしびれ 85 件（6.4%）であった。ワクチン接種後の体調不良は、当初限局的であったが、しだいに心理面も含めた全身症状へと広がり、個人のパーソナリティー要因も影響していると思われるケースもあった。

２回以上のリピーター相談は 42 人で全体の３％（２回 36 人、３回６人、４回２人、６回１人、９回１人、16 回１人）、最も多い相談者は 16 回で同様の症状と訴えを繰り返した。リピーターに対して相談に応じる看護師は、相談者の情報を共有し誰が相談にあたってもつらい気持ちを受け止め共感し、時間をかけて傾聴した。その結果、「誰に相談してもちゃんと話を聞いてもらえてありがたかった。」との言葉をいただいた。

「症状以外」が 158 件と多いが、これは副反応のみならずワクチン接種に関してメディアで副反応の症例を聞いて、追加の接種を迷うという相談や日常的な感染予防をどうしたらよいか、新型コロナに感染してしまったがその後何に気を付けたらよいか等、新型コロナに関する多岐に渡る相談であった。中にはワクチン接種に反対する方々から抗議に近い内容の電話も一定数あり、そのつど可能な限りの情報を伝え、共に考える姿勢で対応した。

年代別にみると 10 歳代、２０歳代は倦怠感・易疲労が主症状であるのに対し、30 歳代、40 歳代は上下肢・体幹しびれや SIRVA が主症状であった。50 歳代以降は 90 歳代までいずれも SIRVA が主症状であった。

(7)　まとめ

ワクチン接種後の長期的な副反応の窓口開設後 6 カ月の傾向は以下の通りであった。

ア　相談者の年齢は 50 歳代、70 歳代が多い

イ　相談者の居住地は名古屋市内 941 人、市外が 310 人、不明が 85 人となっている。

ウ　相談内容はワクチン接種後の他の医療機関紹介希望が 34％と最も多かった

エ　相談時期は接種後半年以上経過してからが全体の 4 分の 1 を占めた

オ　最も困っている症状は、「SIRVA」と想定される症状で、ワクチン接種後に生じる肩の急性症状（肩関節周囲炎、滑液包炎、腱板炎等）であった

臨床経験豊富な看護師や保健師がワクチン接種後の長期副反応に苦しむ市民の相談に応じることの意義

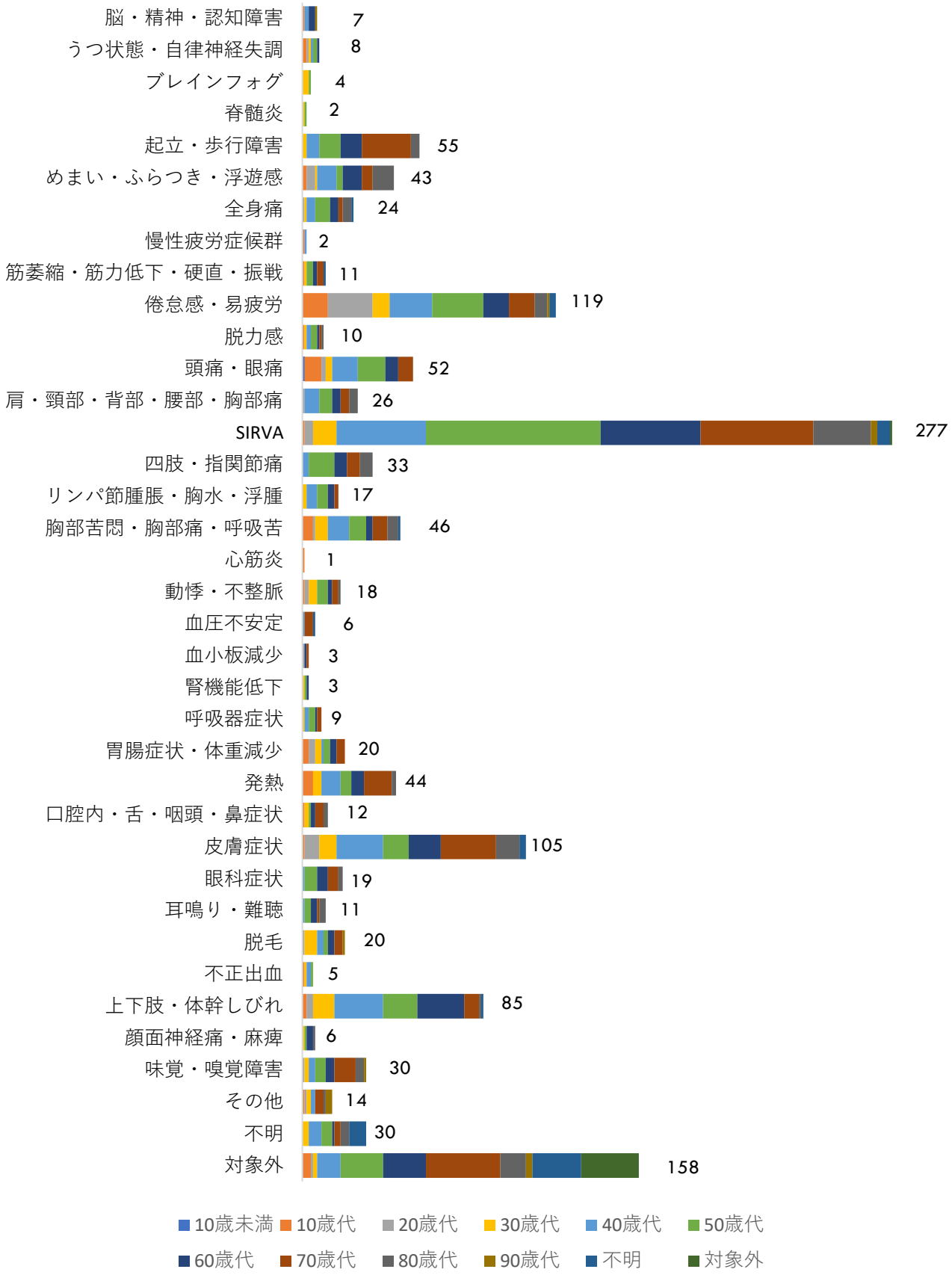
ア　自分だけが苦しんでいるのではないかと悩む市民の不安の軽減

イ　必要に応じ適切な治療へつなげること

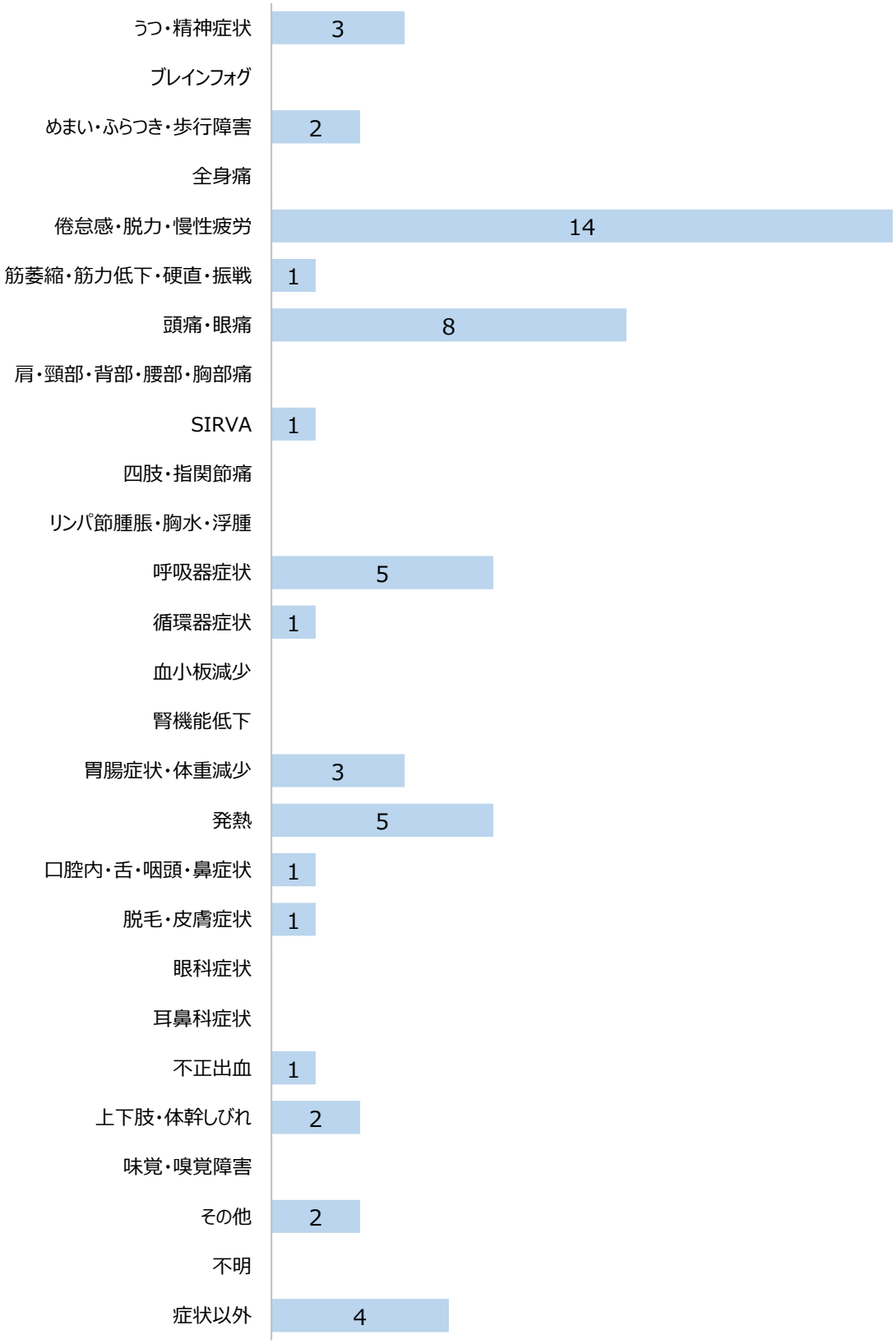
ウ　必要に応じ予防接種救済制度の情報提供

等にあり、副反応に悩む多くの市民が安心、納得して次の健康行動に移行できることをめざして、相談にあたっている。新型コロナ感染症は令和 5 年 5 月には感染症法 5 類に分類される見通しであるが、ワクチン接種後半年～1 年と長期副反応に苦しむ市民の存在は続くと予測されるため、本相談窓口は令和 5 年度も継続する予定である。

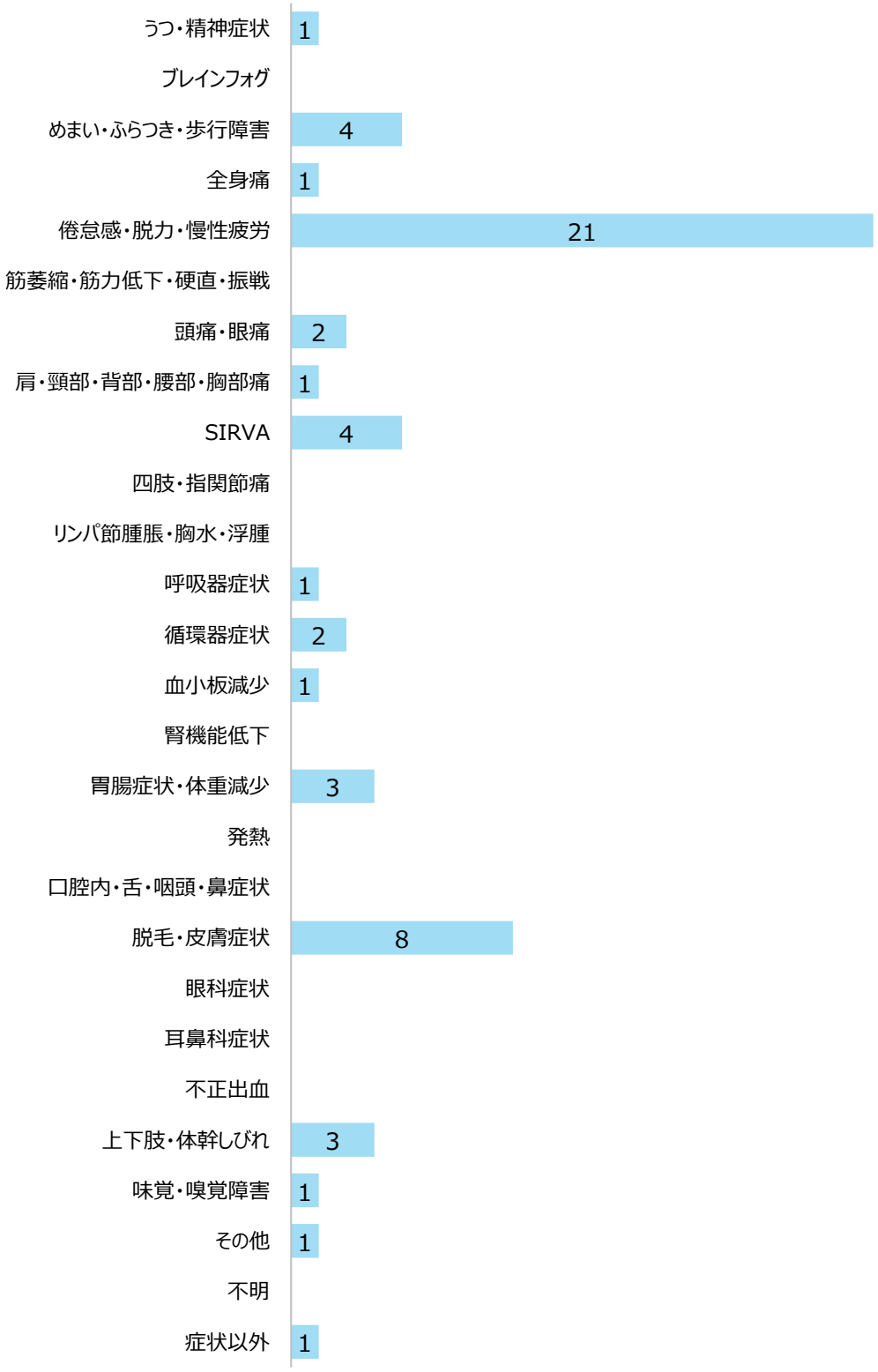
【参考】年代別の症状（令和 4 年 4 月～9 月の実績）※総数 1336 件



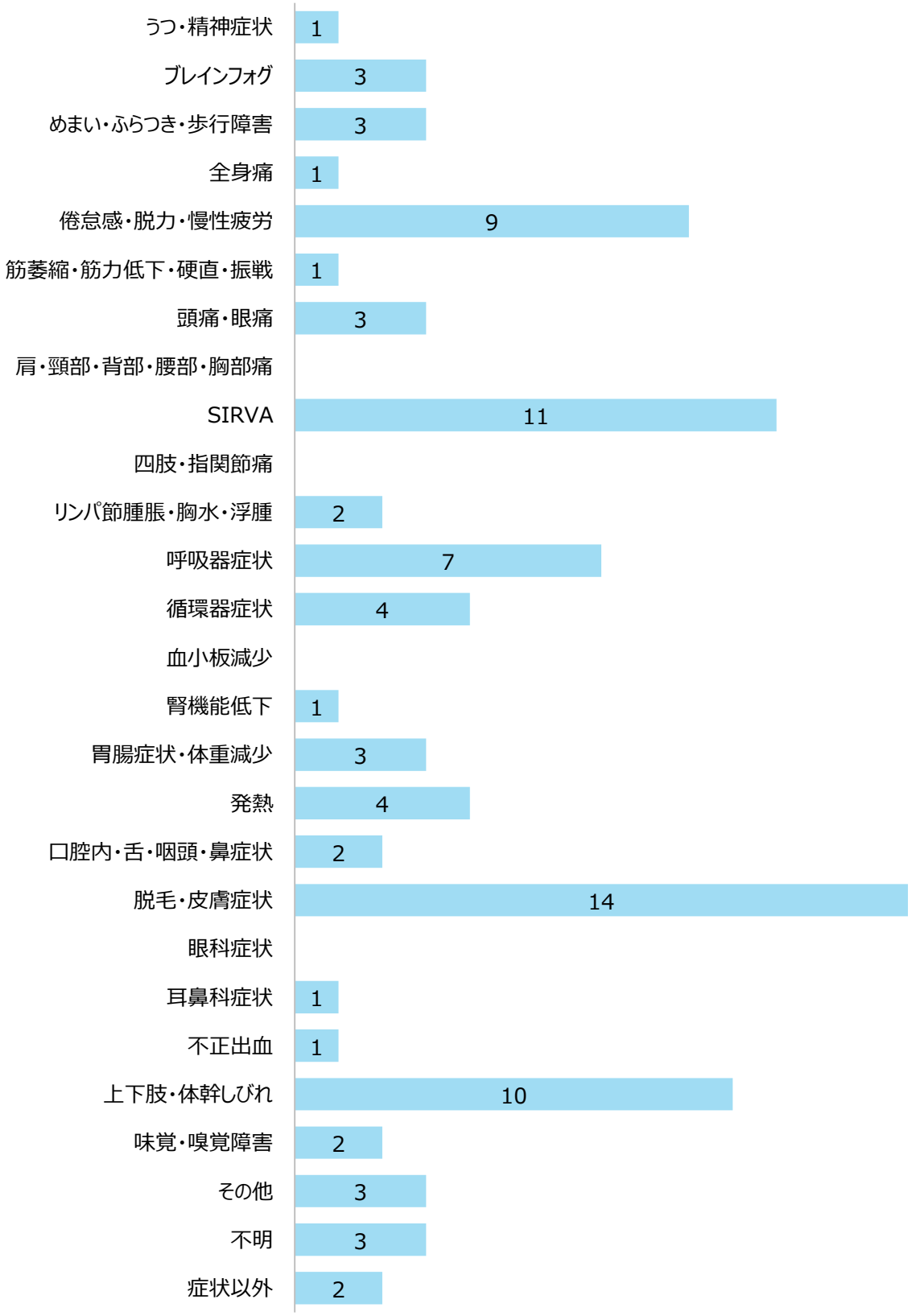
10歳代　　n＝５４


うつ・精神症状 3
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 2
全身痛
倦怠感・脱力・慢性疲労 14
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦 1
頭痛・眼痛 8
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛
SIRVA 1
四肢・指関節痛
リンパ節腫脹・胸水・浮腫
呼吸器症状 5
循環器症状 1
血小板減少
腎機能低下
胃腸症状・体重減少 3
発熱 5
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 1
脱毛・皮膚症状 1
眼科症状
耳鼻科症状
不正出血 1
上下肢・体幹しびれ 2
味覚・嗅覚障害
その他 2
不明
症状以外 4

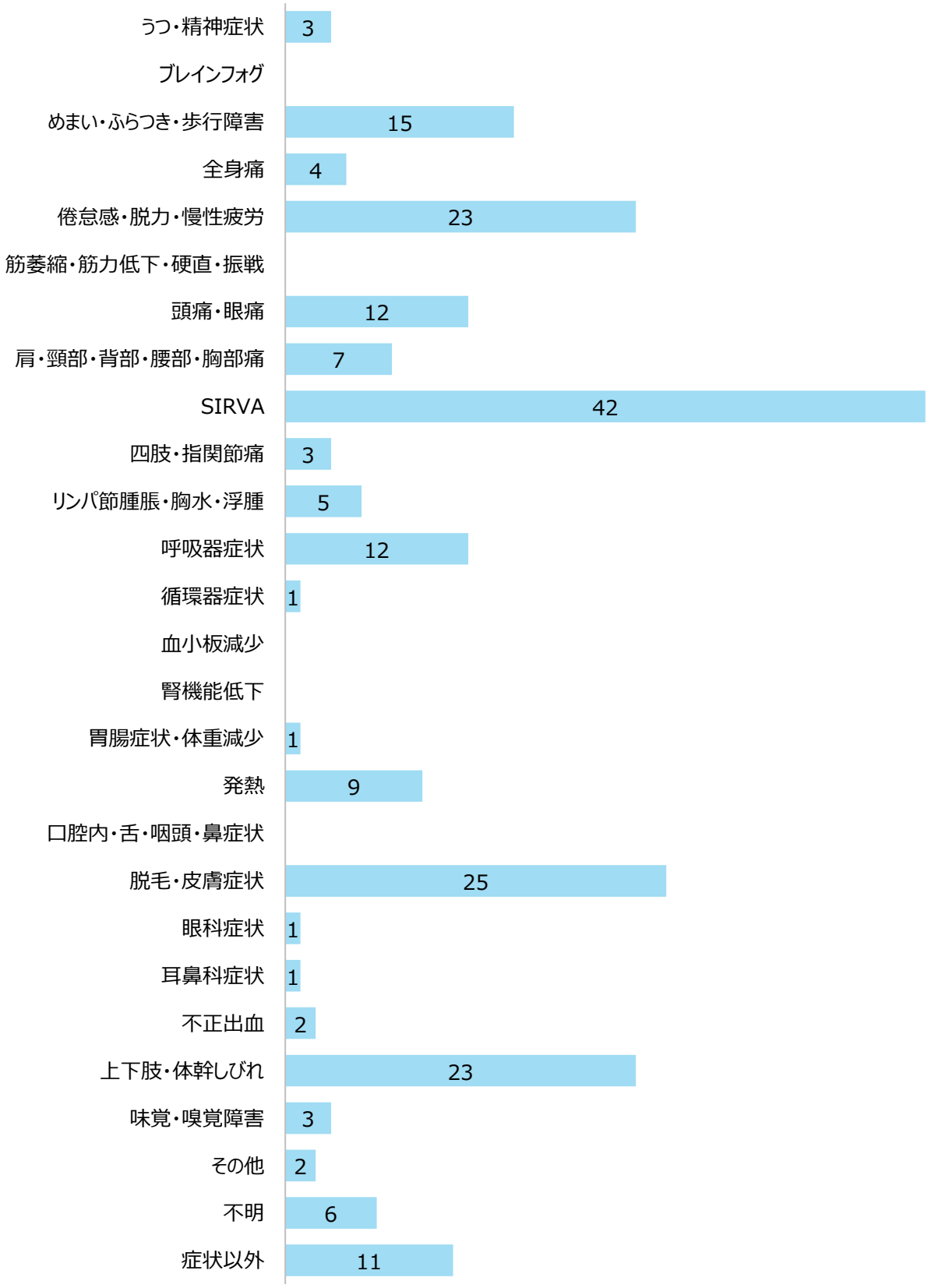
20歳代　n=55


うつ・精神症状 1
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 4
全身痛 1
倦怠感・脱力・慢性疲労 21
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦
頭痛・眼痛 2
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 1
SIRVA 4
四肢・指関節痛
リンパ節腫脹・胸水・浮腫
呼吸器症状 1
循環器症状 2
血小板減少 1
腎機能低下
胃腸症状・体重減少 3
発熱
口腔内・舌・咽頭・鼻症状
脱毛・皮膚症状 8
眼科症状
耳鼻科症状
不正出血
上下肢・体幹しびれ 3
味覚・嗅覚障害 1
その他 1
不明
症状以外 1

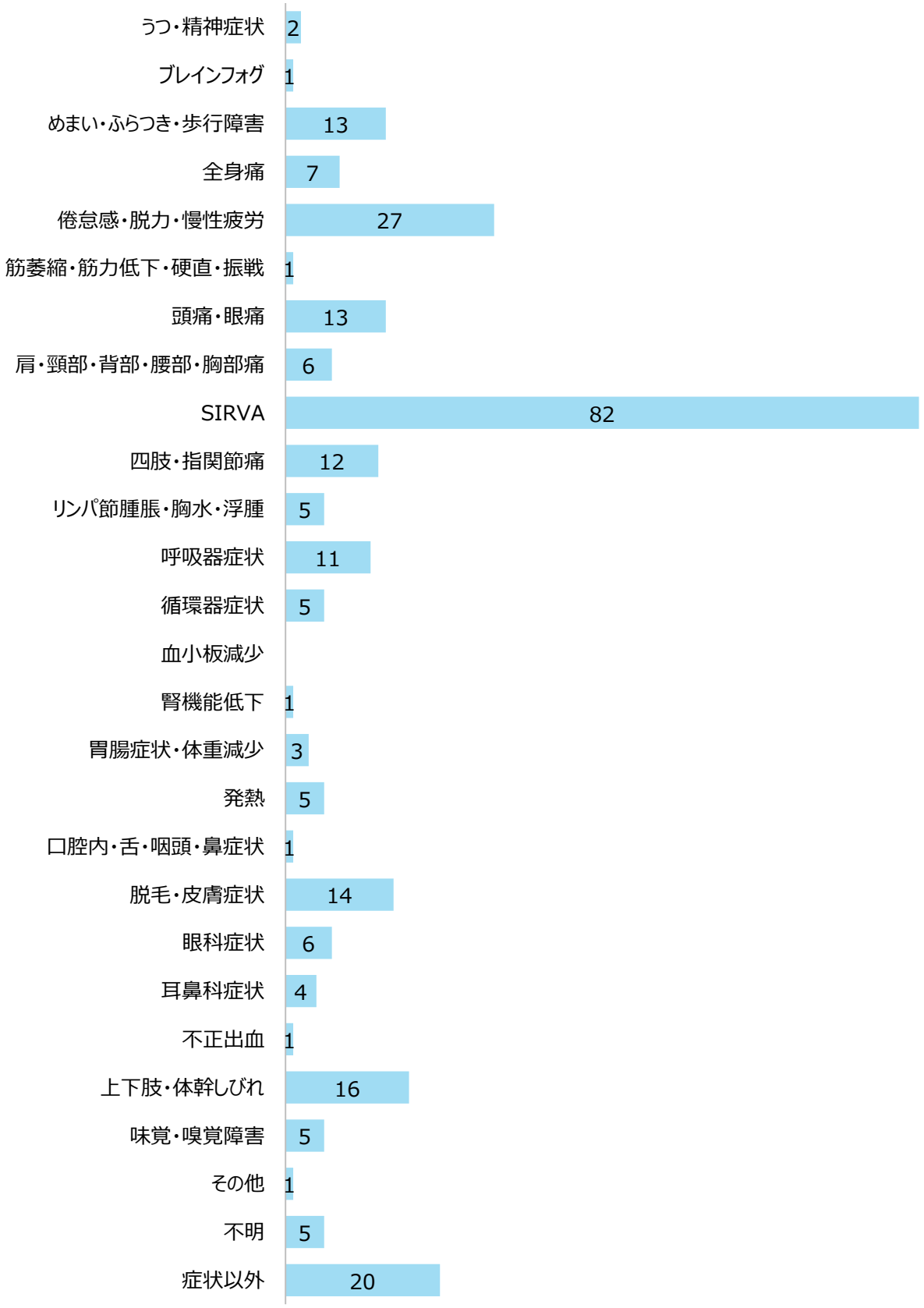
30歳代　n＝91


うつ・精神症状 1
ブレインフォグ 3
めまい・ふらつき・歩行障害 3
全身痛 1
倦怠感・脱力・慢性疲労 9
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦 1
頭痛・眼痛 3
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛
SIRVA 11
四肢・指関節痛
リンパ節腫脹・胸水・浮腫 2
呼吸器症状 7
循環器症状 4
血小板減少
腎機能低下 1
胃腸症状・体重減少 3
発熱 4
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 2
脱毛・皮膚症状 14
眼科症状
耳鼻科症状 1
不正出血 1
上下肢・体幹しびれ 10
味覚・嗅覚障害 2
その他 3
不明 3
症状以外 2

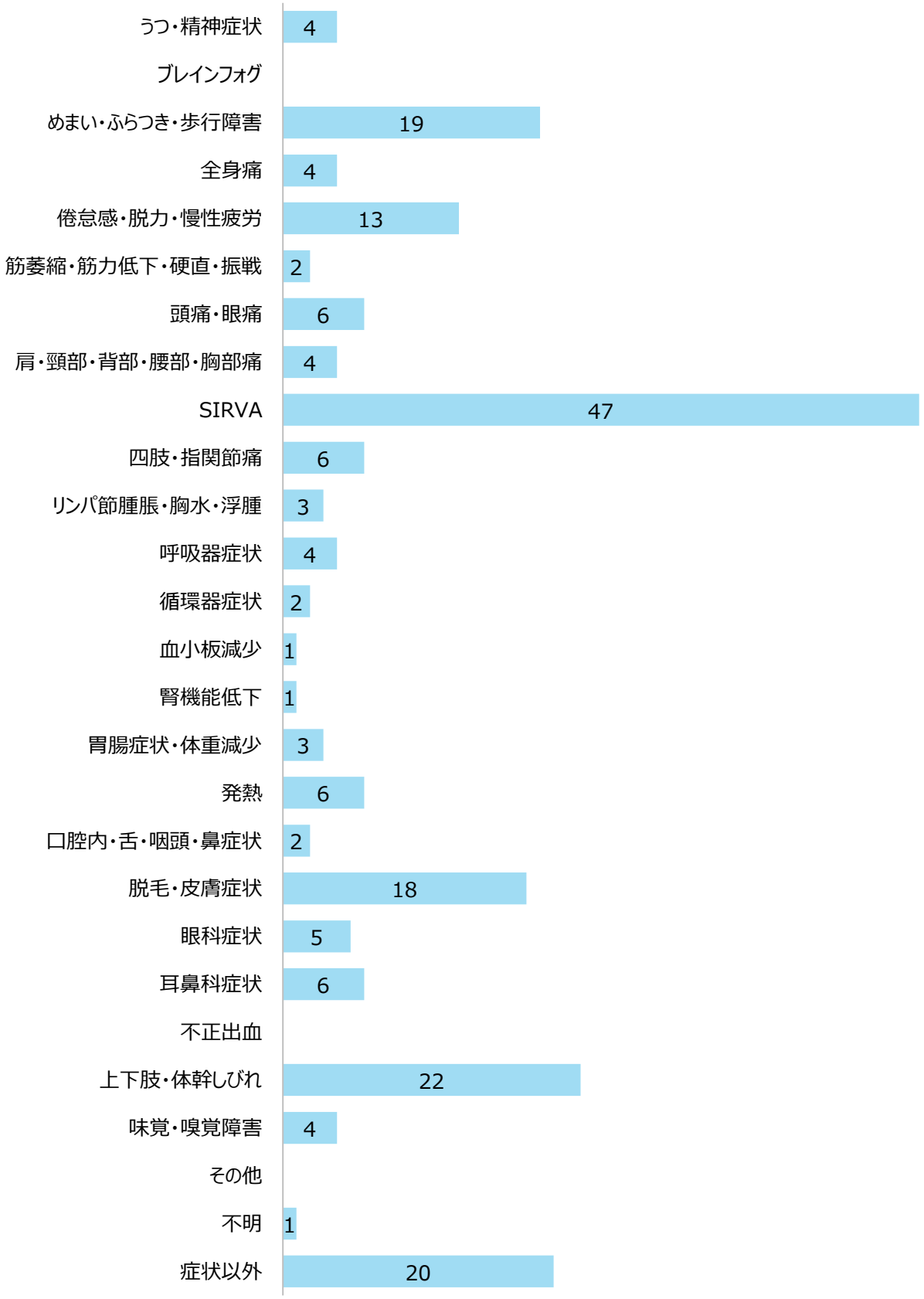
40歳代　n＝211


うつ・精神症状 3
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 15
全身痛 4
倦怠感・脱力・慢性疲労 23
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦
頭痛・眼痛 12
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 7
SIRVA 42
四肢・指関節痛 3
リンパ節腫脹・胸水・浮腫 5
呼吸器症状 12
循環器症状 1
血小板減少
腎機能低下
胃腸症状・体重減少 1
発熱 9
口腔内・舌・咽頭・鼻症状
脱毛・皮膚症状 25
眼科症状 1
耳鼻科症状 1
不正出血 2
上下肢・体幹しびれ 23
味覚・嗅覚障害 3
その他 2
不明 6
症状以外 11

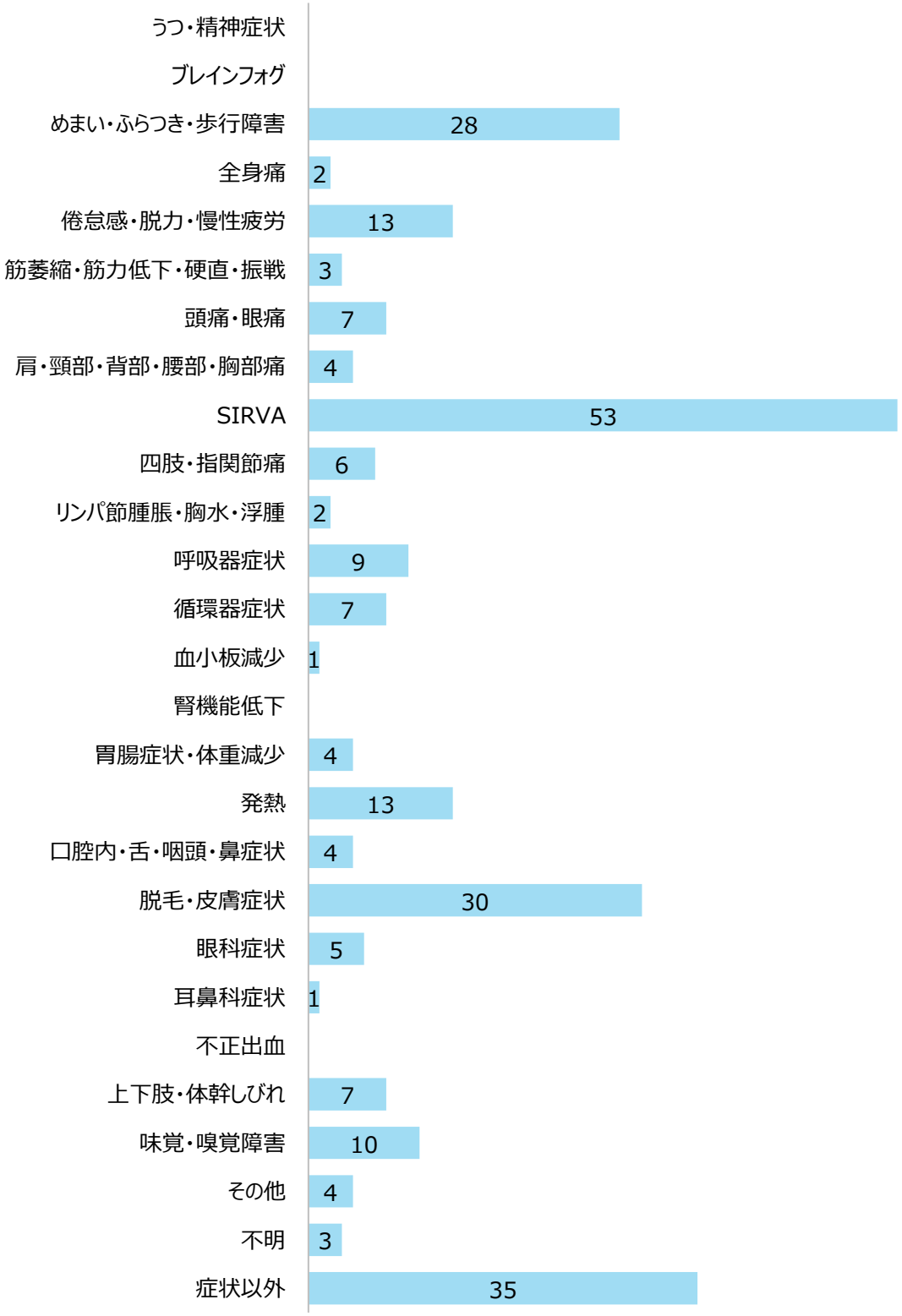
50歳代　n=269


うつ・精神症状 2
ブレインフォグ 1
めまい・ふらつき・歩行障害 13
全身痛 7
倦怠感・脱力・慢性疲労 27
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦 1
頭痛・眼痛 13
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 6
SIRVA 82
四肢・指関節痛 12
リンパ節腫脹・胸水・浮腫 5
呼吸器症状 11
循環器症状 5
血小板減少
腎機能低下 1
胃腸症状・体重減少 3
発熱 5
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 1
脱毛・皮膚症状 14
眼科症状 6
耳鼻科症状 4
不正出血 1
上下肢・体幹しびれ 16
味覚・嗅覚障害 5
その他 1
不明 5
症状以外 20

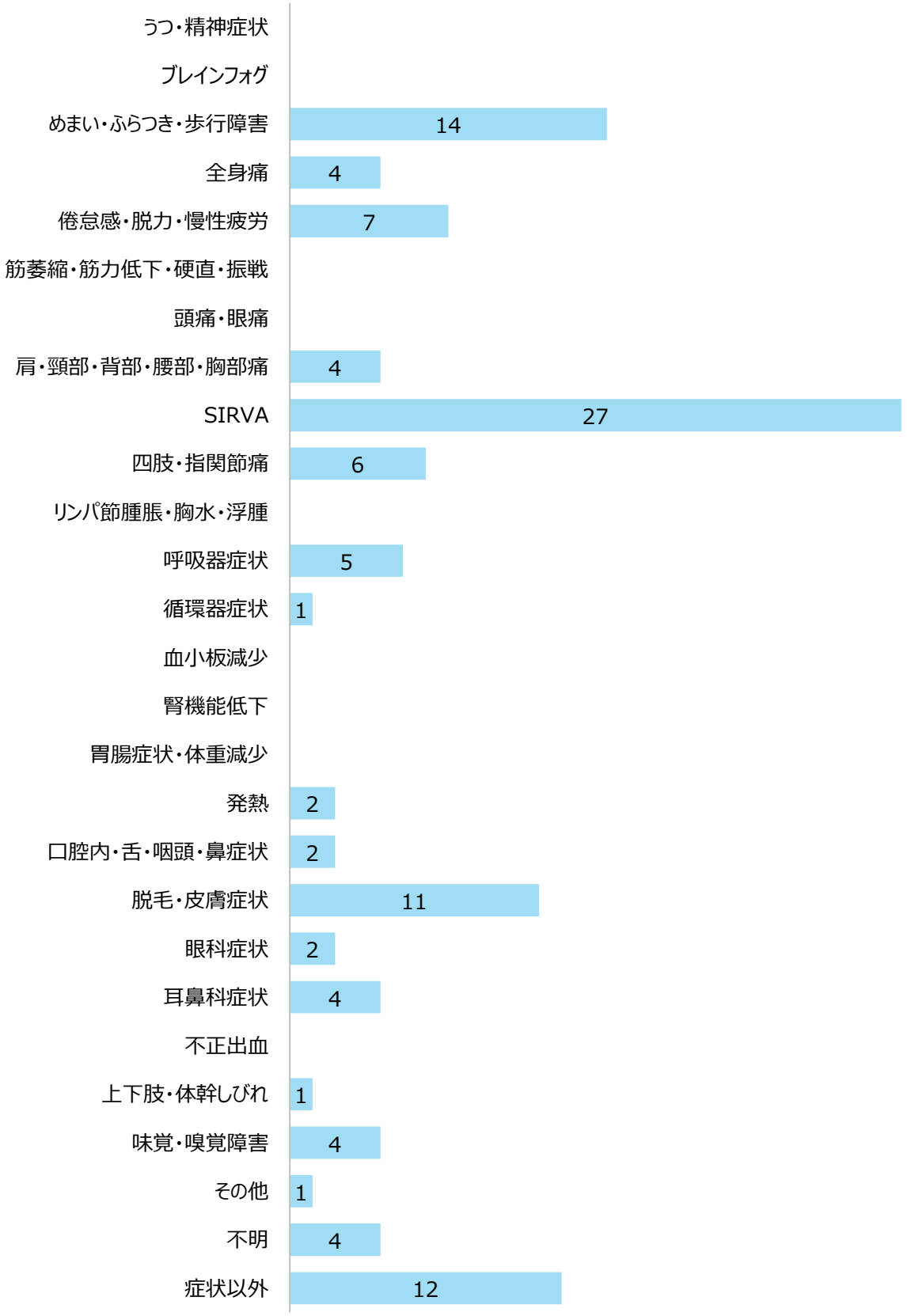
60歳代　n＝202


うつ・精神症状 4
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 19
全身痛 4
倦怠感・脱力・慢性疲労 13
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦 2
頭痛・眼痛 6
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 4
SIRVA 47
四肢・指関節痛 6
リンパ節腫脹・胸水・浮腫 3
呼吸器症状 4
循環器症状 2
血小板減少 1
腎機能低下 1
胃腸症状・体重減少 3
発熱 6
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 2
脱毛・皮膚症状 18
眼科症状 5
耳鼻科症状 6
不正出血
上下肢・体幹しびれ 22
味覚・嗅覚障害 4
その他
不明 1
症状以外 20

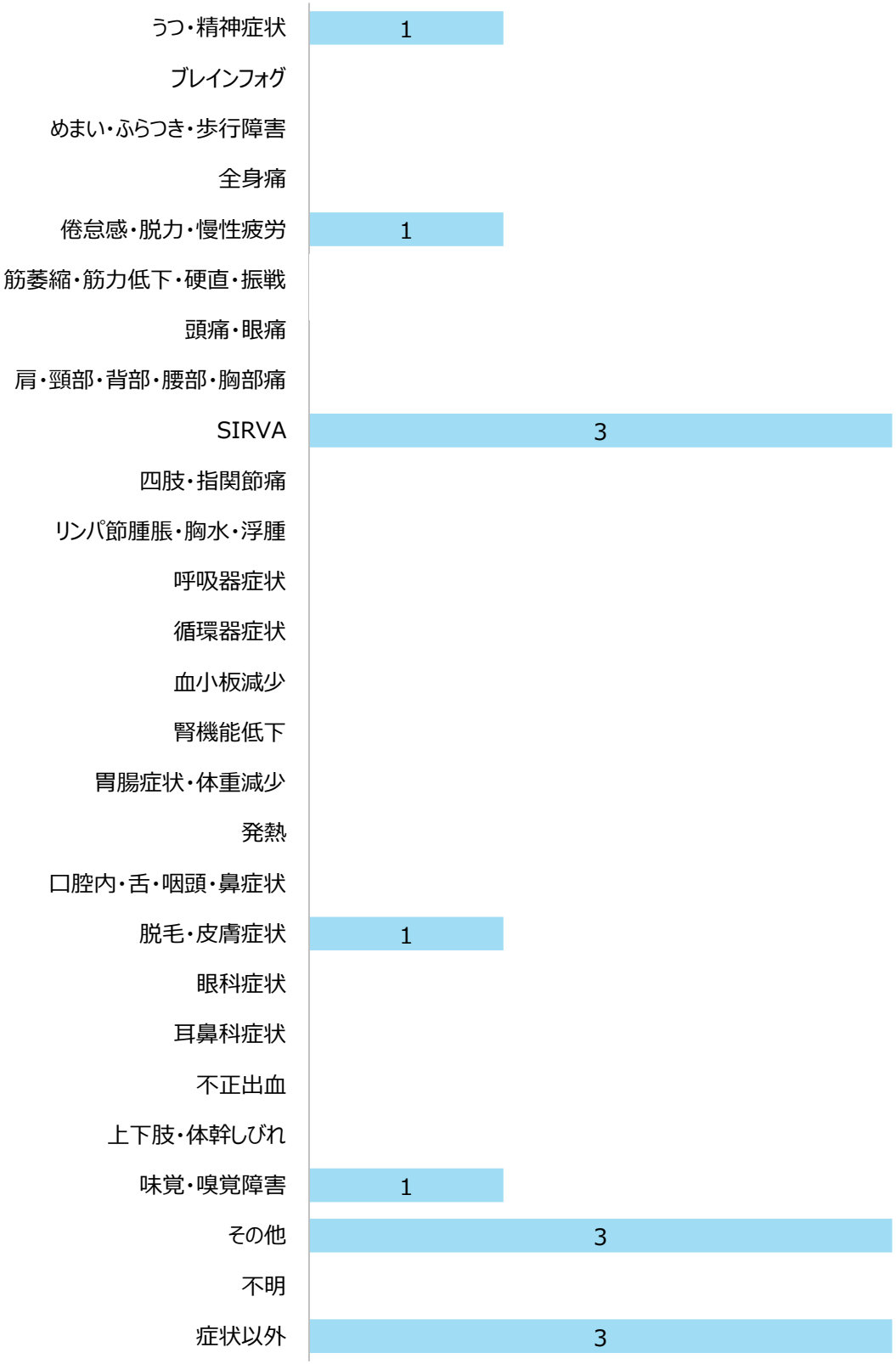
70歳代　　n＝251


うつ・精神症状
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 28
全身痛 2
倦怠感・脱力・慢性疲労 13
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦 3
頭痛・眼痛 7
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 4
SIRVA 53
四肢・指関節痛 6
リンパ節腫脹・胸水・浮腫 2
呼吸器症状 9
循環器症状 7
血小板減少 1
腎機能低下
胃腸症状・体重減少 4
発熱 13
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 4
脱毛・皮膚症状 30
眼科症状 5
耳鼻科症状 1
不正出血
上下肢・体幹しびれ 7
味覚・嗅覚障害 10
その他 4
不明 3
症状以外 35

80歳代　n=112


うつ・精神症状
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害 14
全身痛 4
倦怠感・脱力・慢性疲労 7
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦
頭痛・眼痛
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛 4
SIRVA 27
四肢・指関節痛 6
リンパ節腫脹・胸水・浮腫
呼吸器症状 5
循環器症状 1
血小板減少
腎機能低下
胃腸症状・体重減少
発熱 2
口腔内・舌・咽頭・鼻症状 2
脱毛・皮膚症状 11
眼科症状 2
耳鼻科症状 4
不正出血
上下肢・体幹しびれ 1
味覚・嗅覚障害 4
その他 1
不明 4
症状以外 12

90歳代　n=13


うつ・精神症状 1
ブレインフォグ
めまい・ふらつき・歩行障害
全身痛
倦怠感・脱力・慢性疲労 1
筋萎縮・筋力低下・硬直・振戦
頭痛・眼痛
肩・頸部・背部・腰部・胸部痛
SIRVA 3
四肢・指関節痛
リンパ節腫脹・胸水・浮腫
呼吸器症状
循環器症状
血小板減少
腎機能低下
胃腸症状・体重減少
発熱
口腔内・舌・咽頭・鼻症状
脱毛・皮膚症状 1
眼科症状
耳鼻科症状
不正出血
上下肢・体幹しびれ
味覚・嗅覚障害 1
その他 3
不明
症状以外 3